

令和5年度 シラバス

学年	教科	教材
2年	社会科	教科書 「新しい社会 地理」(東京書籍)、「新しい社会 歴史」(東京書籍) 副教材 地図帳:「中学校社会科地図」(帝国書院)

1. 学習の目標

- ・我が国の国土と歴史を、地域の特色や各時代の特色を踏まえて理解するとともに、調査や諸資料から地理や歴史に関する様々な情
- ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断し
- ・地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面

2. 学習の方法

- ・教科書の内容を中心に進めながら、現在の社会的な事象なども絡めて学習します。積極的に発言をして取り組むことが大切です。
- ・グループ学習など協力して課題に取り組む授業も取り入れます。積極的に協力し合う力を高めましょう。
- ・授業で配るプリント類は、必ず整理してノートに貼りましょう。
- ・ワークは、基本的に家庭学習で役立てましょう。
- ・日々の復習が大切です。授業での積極に取り組む姿勢と計画的に家庭学習に取り組むことを期待しています。

3. 評価の観点と評価方法

評価の観点	評価の方法
知識・技能	定期テスト・小テスト(知識・技能を問うもの)
思考・判断・表現	定期テスト・小テスト・課題など(思考・判断・表現を問うもの)
主体的に学習に取り組む態度	定期テスト・授業における態度など

4. 年間授業計画

月	単元・題材名	主な学習内容	学習のねらい
4	〈地理的分野〉 日本の姿	自然環境の特色	世界的視野や日本全体の視野からみた日本の地域的特色を取りあげ、我が国の国土の特色を、自然環境の結びつきの視点から大観させる。
5	世界と比べた日本の地域的特色	都道府県	都道府県やその地域区分の方法を理解する。
6	日本の諸地域	九州地方	日本をいくつかの地域に区分し、それぞれの地域について、①自然環境、②人口や都市・村落、③産業、④交通や通信、⑤その他の事象(歴史的背景や環境問題や環境保全、生活・文化、他地域と結びつきなど)のいずれかの視点に着目して地域的特色をとらえさせる。 九州地方を概観し、自然環境や人々の生活の特色を理解する。
7	日本の諸地域	中国・四国地方	中国・四国地方を概観し、自然環境や人々の生活の特色を理解する。
		近畿地方	近畿地方を概観し、自然環境や人々の生活の特色を理解する。
8	日本の諸地域	中部地方	中部地方を概観し、自然環境や人々の生活の特色を理解する。
9	日本の諸地域	関東地方	関東地方を概観し、自然環境や人々の生活の特色を理解する。
		東北地方	東北地方を概観し、自然環境や人々の生活の特色を理解する。
		北海道地方	北海道地方を概観し、自然環境や人々の生活の特色を理解する。
	地域のあり方	身近な地域の調査	地域の課題を追求したり解決したりする力を身につける。

10	世界と比べた日本の地域的特色	人口の特色	世界的視野や日本全体の視野からみた日本の地域的特色を取りあげ、我が国の国土の特色を、人口・資源や産業・地域間の結びつきの特色から大観させる。
		資源や産業の特色	
		地域間の結びつきの特色	
11	〈歴史的分野〉 武家政権の成長と東アジア	武家政権の内と外	元寇、日明貿易、琉球の国際的役割などから、東アジア世界との密接な関わりや、それが国内に及ぼした影響を理解する。
		大航海によって結びつく時代	ポルトガルやスペインによる新航路開拓や宗教改革によるキリスト教世界の動きにともなって、鉄砲やキリスト教が伝来して南蛮貿易がさかんになり、それらが日本の社会に影響を及ぼしたことを理解する。
		戦乱から全国統一へ	織田信長が行った仏教勢力への圧迫や関所の撤廃、豊臣秀吉が行った検知・刀狩りなどの政策によって、中世の大きな勢力が力を失ったことや、中世までと異なる社会が生まれていったことなどの変化に気づく。
12	武家政権の展開と世界の動き	武士による支配の完成	江戸幕府の支配の下に大きな戦乱のない時期を迎えたことなど、中世から近世への転換の様子を、中世の武家政治との違いに着目して考察し、自分の言葉で表現することができる。 江戸幕府の成立と大名統制については、幕府が大名を統制するとともに、その領内の政治の責任を大名に負わせたことに気づく。
		天下泰平の世の中	農林水産業や手工業、商業などの産業や河川・海上交通、街道が発達したことについて、身近な地域の特色を生かした事例を選んで理解する。 大阪・京都などの都市を舞台に、経済力を高めた町人を担い手とする文化が形成されたことを理解する。
		社会の変化と幕府の対策	貨幣経済の農村への広がりや自然災害などによる都市や農村の変化に着目し、近世社会の基礎が動揺していったことに気づく。 蘭学や国学の中に新しい時代を切り開く動きが見られたことに気づく。
1	近代国家の歩みと国際社会	欧米諸国における近代化	工業化による社会の変化という観点から、イギリスなどにおける産業革命などを取り上げ、これを通して資本主義社会が成立したことや労働問題・社会問題が発生したことに気づく。 産業革命の進展にともなって、欧米諸国が新たな工業製品の市場や工業原料の供給地を求めてアジアへの進出を強めたことに着目する。

		開国と幕府の終わり	<p>欧米諸国のアジア進出と関連づけて取り扱い、幕府が対外政策を転換して開国したことと、その政治的および社会的な影響を理解させ、それが明治精神の動きを生み出したことを理解する。</p>
2	近代国家の歩みと国際社会	新しい価値観の下で	<p>富国強兵・殖産興業政策の下に新政府が行った、廃藩置県・学制・徴兵制・税制の改革を取り上げ、近世から現代への転換の様子を、政治嫌社会の違いに着目して考察し、自分の言葉で表現する。</p> <p>欧米諸国かえら取り入れた制度や文化の影響で、社会の様子や人々の生活が大きく変化したことを理解する。</p>
		近代国家への歩み	<p>自由民権運動の全国的な広まり、政党の結成、憲法の制定過程とその内容の特色を扱い、大日本帝国憲法の制定によって当時アジアで唯一の立憲制の国家が成立したことに着目し、立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことの歴史上の意義や現代の政治とのつながりを理解する。</p>
		帝国主義と日本	<p>条約を改正し、欧米諸国と隊等の外交関係を樹立しようとした人々の努力に気づく。</p> <p>大陸の関係に着目させ、日清・日露戦争に至るまでの日本の動き、戦争のあらましと国内外の反応、韓国の植民地化などを扱い、日本の国際的地位が向上したことを理解する。</p>
3	近代国家の歩みと国際社会	アジア強国の光と影	<p>富国強兵・殖産興業政策の下、製糸業、紡績業や鉄鋼業などの近代産業が日清戦争前後から飛躍的に発展して、資本主義経済の基礎が固まったことを理解する。</p> <p>鉄道網の広がりや工業の発達などによって人々の生活の変化が見られた一方で、労働問題や社会問題が発生したことに気づかせる。</p> <p>伝統的な文化の上に欧米文化を受容して、日本の近代の文化が形成されたことを理解する。</p>